

(社)日本鑄造工学会 「生型砂管理技術の再構築」研究部会
第 10 回研究部会議事録

日時 : 2014 年 6 月 27 日(金) 13:00~17:00

場所 : 新東工業(株)東京支社会議室(京浜東北線 川口駅 徒歩3分)

出席者: 橋本(部会長, 新東工業), 金森(金森メタル), 藤井(太洋マシナリー), 西野(コマツキャステックス), 上林(ツチヨシ), 寺島(豊洋ベントナイト), 酒井(森川産業), 川島(マツバラ), 倉上(ヤマトインテック), 樋口(中央可鍛工業), 田中(コヤマ), 松本(クボタ), 井上, 三反(虹技), 鵜田(クニミネ), 永田(大銑産業), 森川(森川鉄工), 斉藤(ツチヨシマテック), 小倉(新東工業), 前田(幹事, 大同大)

以上 20 名(敬称略, 順不同)

議事

1. 前回議事録 異議なく承認
2. 本部への研究部会活動報告について(10-01-1, 10-01-2)

新東工業(株) 橋本部会長

第 164 回全国講演大会(京都)の大会期間中に開催された研究委員会への部会報告内容と, 2013 年 3 月末で提出した研究部会の会計報告について説明して意見照会を行った. 特段の意見もなく, この方向で進めていくこととなった. 主な内容は下記のとおりである.

- ・ サブテーマ「生型砂管理技術の再構築」(橋本部会長)での活動は 2014 年 12 月または 1 月の第 12 回開催で終了予定
- ・ 活動終了にあたって,
 - ・ レビューの会誌への投稿に関しては, 2015 年 3 月投稿を目標に事務局で対応を検討
 - ・ 研究部会報告は, シンポジウムテキストとして作成
 - ・ シンポジウムは 2015 年 6 月頃開催で検討にはいる
 - ・ 次期部会長には佐藤氏(アイメタルテクノロジー)を推したい
 - ・ 次期研究部会は, 2015 年 3~4 月頃活動開始予定で, その数ヶ月前に会告を行う.

3. 日本鑄造工学会第 2 期長期ビジョンについて(10-02)

新東工業(株) 橋本部会長

第 164 回全国講演大会(京都)で説明のあった日本鑄造工学会第 2 期長期ビジョンについて再度紹介した. この中で, 戦略課題『技術革新に繋がる基礎研究の推進』は研究委員会が中心的に活動していくことが説明された.

4. 鑄造用語と地質用語のオーリチックスの概説(10-3)

(株)ツチヨシ 上林委員

「オーリチックス」は, 元々は地質用語であり, 地質分野における色々なオーリチックス, 魚卵状石灰岩や鯛(じ)状珪石などが照会された. 次に鑄造用語としてのオーリチックスについて, 新砂からの形成, すくわれや焼きつき欠陥との関連, 付着とはく離, 水分移動についてなど概説された. 加えて, システムサンド特性の経時変化とシリカプラグラムから始まったオーリチックス量の計測手法の変遷との関連が述べられた.

5. 弊社鑄物工場の現状

コマツキャステックス(株) 西野委員

日本, 中国, タイで計 4 ライン稼働の鑄鉄鑄物/生型砂ラインにおける管理状況について状況説明があった. 中国で非常に幅の狭い管理基準を採用することで, 結果としてバラツキの少なくなり, 砂付き欠陥が減少した事例にもとづき, 他の 3 ラインでも管理幅を小さくする対応をとったところ良好な

結果が得られていると報告があった。

6. その他

・WFC2014 の概要紹介(10-etc-1)

新東工業(株) 橋本部会長, 大同大 前田幹事

2014 年 5 月 19 日～22 日にスペイン／ビルバオで開催された第 71 回世界鑄造会議(World Foundry Congress : WFC2014)の状況, 砂型関連の発表内容等について概説があった。次回の第 72 回は 2016 年に名古屋開催である。

・第 11 回生型研究部会について(10-etc-2)

新東工業(株) 橋本部会長, 森川鉄工(株) 森川委員

次回研究部会は, 森川委員(森川鉄工)の尽力により, 9 月 25 日(木)に北海道札幌市で研究部会, 翌 26 日(金)に工場見学会を開催する方向で準備が進んでいることが説明された。工場見学会については見学先との調整が残っているものの, 日程は決定していることにより, 早期に北海道行きの飛行機チケット及び宿泊ホテルを予約するように指示があった。

・今回から斎藤氏(ツチヨシマテック)が新しく委員参加となった。

以上